



# どんぐり



パークセンターだより 第116号 2012年8月・9月号

## 「春の七草」と「秋の七草」

自然解説員  
川端祥子



【ドクゼリ(園内にはありません)】

「春の七草」と「秋の七草」という言葉をよく聞きますがどのように違うかわかりますか？今回はこの2つの言葉を中心に調べていきたいと思います。

もちろん春と秋は季節を表しています。では七草とはなんでしょう。春の七草は長い冬が明け、冬から春にかけて伸びてくる草の新芽を求めて野原を散策できる喜びとともに、冬の不足がちの野菜を補う意味も含まれていたようです。正月7日におか

ゆに加えて食べる風習は中国から伝わったもので、万病を払い、長生きをできると言われています。民間ではこの朝炊いたモチや七草をいれたおかゆを神前に供え、この年の五穀豊穡を願ったそうです。このように春の七草は食べられる植物です。どんな植物が使われているか調べていきましょう。地方によって違うようですが、普通は「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ、これや七草」と言われています。

- セリ・・・セリ科。田んぼや小川、湿地などに生える多年草。香りもよく、栽培もされています。ただし、同じようなところに生え、芽立ちの頃はセリに非常によく似た有毒植物があります。ドクゼリです。  
この植物は育つと葉も大きく、茎も太く、竹のような節があり、根も太く大きいので見分けがつかずと思います。
- ナズナ・・・アブラナ科。実の形がシャミセンのばちに似ていることからペンペンサとも言われています。昔から食用にされ、冬もロゼット状に葉を広げています。
- ゴギョウ・・・キク科。ハハコグサの別名。ハハコグサの葉は白いやわらかい毛で覆われているため、白い衣や紙で穢れをぬぐい水に流す形代のかわりに高価な紙を買えない庶民がハハコグサで体をぬぐい、形代のかわりにしたのではないかとされています。

- ハコベラ・・ナデシコ科。ハコベのこと。ミドリハコベ、コハコベ、ウシハコベ等種類かありますが、いずれもその花卉は5枚だが、ちょっと見には10枚に見えます。それは1枚の花弁の切り込みが深く2枚に見えるためです。ハコベはよくウサギや小鳥のえさとしても使われていますが「はびこる=栄える」と解釈され、縁起がいいものとされています。
- ホトケノザ・いろいろな説があるようですが、現在ではキク科のコオニタビラコではないかと言われています。それはシソ科のホトケグサでは早春にはまだ芽が出ていないのです。それに対しコオニタビコラは水田のような湿ったところで、ロゼッタ状の根生葉で冬を越すのです。
- スズナ・スズシロ  
アブラナ科。カブとダイコンのこと。すずは鈴のことで神を呼ぶ道具。白は穢れがないことをあらわしているといひます。

このようにできるだけ縁起のよい植物を集めて新しい年を迎えたのではないのでしょうか。これに対して秋の七草はどうでしょうか。秋の七草に関しては万葉集の中に山上臣憶良の詠んだ歌が残されています。「秋の野に咲きたる花を指折りかき数ふれば七種の花」と「萩の花、尾花 葛花 なでしこの花、おみなえし、また ふじばかま、朝顔の花」の二首がよく知られています。いずれも秋咲く花です。そして「中秋の名月」を觀賞し新しい収穫物を月に供えて禊りを感謝する祭りのために花も供えたのが始まりのようです。

- ハギ・・・マメ科の木本。花をめでもだけでなく、根元からたくさんはえる細いしなやかな枝を利用してほうきかやごが作られています。七種の植物の中では唯一の木本です。
- 尾花・・・イネ科。ススキのこと。日のよくあたる山野で大きな株をつくります。変異が多く觀賞用に栽培されているものもあります。また、この仲間をカヤとも言いますが、穂の出る前に刈り取って乾燥し、屋根を葺いたので「刈屋根」がなまったのではないかとされています。また、ススキによく似たオギは株を作りませんし、川原のような水分の多い場所を好みます。
- 葛花・・・マメ科。つる性の植物で、丈夫なためカゴなどを編んだり、繊維を取り出して布にしたりして利用されています。布は葛布といい今はコートや帽子などで使われています。根は肥大して澱粉をためるため、その澱粉を取り出してくず粉として使用しています。人間だけではなく小さな虫のコフキゾウムシや成虫で冬を越すウラギンシジミの幼虫もくずを利用しています。
- ナデシコの花・ナデシコ科。ピンク色の花が彩りを添えるカワラナデシコが使われています。日当たりのよい草地や川原で見ることができますが、最近はあまり見かけなくなりました。
- オミナエシ・オミナエシ科。日当たりのよい山野の草地に生える1m位まで伸びる多

ねんそう 年草。黄色い小さな花をたくさんつけ、ぐんせい 群生することが多い草ですが最近さいじんは自然のものをほとんど見かけなくなりました。

- フジバカマ・キク科。関東以西の川の土手などで見られるようですが、千葉県では希少種になっています。フジバカマの葉は生乾きのとき桜餅のサクラの葉と同じような匂いがします。
- 朝顔の花・アサガオ(ヒルガオ科)はインドからヒマラヤにかけての原産といわれ、10世紀頃中国から薬として入ってきた植物で、江戸時代にたくさんの園芸種まんようしゆが作られました。そのため万葉集の作られた奈良時代にはなかったと思われます。そのためキキョウ(キキョウ科)ではないかと言われていて、キキョウは日当たりのよい草地たねそうに生える多年草で根が薬用に使われるようです。

春の摘み草は今も楽しいものですが、食べられる植物に非常によく似た毒草があります。特に芽立ちの頃は慣れた人でも難しいものがたくさんあるので、よく知っている人と出かけてください。でも、この公園内は採取禁止さいしゆきんしですので採らないでくださいね。



## ～新しいみどりの相談員の紹介～

7月から新しく加わる、みどりの相談員を紹介します。



あきもとみつじ

秋元 満司 みどりの相談員

花が大好きという方は多いと思います。その草花達に対する疑問等の解決に少しでも力になればと思っています。

よろしくお願い致します。

# 葉裏の小さなレース虫 ～グンバイムシ～

自然解説員  
むろのりゆき  
室紀行

8月はたくさんの虫たちが活発に動き回る季節です。ここ21世紀の森と広場でも、少し探してみるだけでいろいろな種類が見つかります。立派なカブトムシやクワガタムシ、綺麗なアゲハチョウなどはとても見ごたえがありますね。でも今回は、普段あまり目立たない小さな虫たちにスポットを当ててみたいと思います。

園内にたくさん植えられているツツジの中には、葉に白い斑点<sup>はんてん</sup>ができています。病気が原因であることもありますが、葉の裏側に小さな虫が見つかったら、それは虫のしわざかもしれません。透明で平たい形をしたこの虫はツツジグンバイという虫で、ツツジの葉に斑点<sup>はんてん</sup>をつくった犯人です。



体長 4mm 程度と非常に小さいので一見すると分かりにくいのですが、ルーペなどを使って拡大して見るととても面白い形をしています。体のほとんどの部分は透明な翅<sup>とうめい</sup>で、翅脈<sup>はね</sup>で仕切られた小さな部屋がシャボン玉のように光る様子はステンドグラスのようです。上から見ると、翅にはX字の黒い模様が目立ちます。頭の上にはしずく形のフードを被<sup>かぶ</sup>っていて、その横には翼<sup>うよく</sup>のような突起が飛び出しています。幼虫は幼虫で、トゲトゲしたアブラムシのような不思議な形をしています。よくよく見てみればかなり奇抜<sup>きぼつ</sup>な姿をした虫です。

## 【ツツジグンバイ】

この虫の仲間には、相撲の行司が持っている軍配に体の形が似ていることから、「グンバイムシ」という名前がつけられています。似ても似つかない見た目ですが、セミやカメムシに近い昆虫です。ちなみに英語圏では、全体の形よりも翅のすかし模様に着目してLace bugs（レース虫）と呼ばれています。こちらの方が何だかお洒落ですね。彼らはアブラムシのようにストロー状の口を植物に突き刺して、その中身を吸うことで食事をしています。ツツジグンバイはツツジやサツキなどツツジ科の植物しか食べません。グンバイムシは種類によって餌とする植物が決まっており、親戚<sup>しんせき</sup>どうしと言えるような近い種類でも全く違う植物につくものがあります。

21世紀の森と広場ではツツジグンバイの他に、サクラなどバラ科<sup>じゆもく</sup>の樹木につくナシグンバイ、クヌギやコナラにつくヒメグンバイ、セイタカアワダチソウを中心に様々な植物につくアワダチソウグンバイなどがよく見られます。それぞれツツジグンバイとは微妙<sup>とくちやうてき</sup>に違った特徴的な見目をしています。ナシグンバイは茶色と白のまだら模様で、ヒメグンバイは全身薄茶色<sup>うすちやいろ</sup>です。穴だらけの不思議な翅を持ったアワダチソウグンバイ

は、実は近年になって日本に侵入した外来種<sup>がいらいしゅ</sup>で、先に侵入していたセイタカアワダチソウを餌<sup>たいはんしょく</sup>に大繁殖して至る所でその姿を見ることができます。これらの植物の葉に白い斑点ができていたら、それはグンバイムシの食事の跡かもしれません。葉っぱを裏返してみると、小さな軍配<sup>ぐんぱい</sup>が身を寄せ合っているのが見られるかもしれませんよ。



【ナシグンバイ】



【ヒメグンバイ】



【アワダチソウグンバイ】

小さなグンバイムシには小さな天敵<sup>てんてき</sup>がいます。グンバイムシによく似た模様をしたグンバイカスミカメという名前のカメムシの仲間がいるのですが、この虫はグンバイムシを専門に食べています。よく似た姿でグンバイムシに近づき、油断しているところを襲って食べてしまうというわけです。殺虫剤を撒いている草木ではなかなか姿を見ることができませんが、園内のツツジなどではもしかすると見つかるかもしれませんね。

グンバイムシの他にも、普段は目を向けないような小さな虫たちはそれぞれが面白い姿をしています。ルーペ片手に小さな虫たちの世界を覗いてみてはいかがでしょうか。



## みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738  
ハナミツバチ

たんじつしょくぶつ たんじつしゅり  
短日植物を短日処理で  
早く咲かせてみてはどうでしょう

自然解説員  
青島尚祐

9月10日ごろになるとまた今年も秋菊の花芽分化の時期になったなあと思う。



(シュウギク)

秋菊は街灯の下では良く咲かないことがあるのを知っているかと思いますが、1日の明るい時間が短くなると、(正確には暗い時間が長くなると)花芽の元が出来てそれが蕾に発生して花が咲いてくる植物です。

9月中旬に花芽が出て11月上旬に咲いてくる菊では8月の内から9月の終わりに

で明るい時間を短くしてやるとそれだけ早く咲きます。生育には温度が影響しますが、真夏に黒ビニールなどで覆いをすると、中が蒸れるので夏の切花栽培は寒冷地で行っています。

家庭で鉢植えを少量やるにはダンボールの箱を夕方6時から朝8時までかぶせるようにします。明るさの基準は10ルクスで新聞の字が読めない程度です。途中、中断があると蕾に異常をきたします。

ポインセチアも同じ短日植物ですが花が咲く頃、苞が色付きます。短日処理をしないと色付くのが1月になりクリスマスに間に合いません。それに温度が低くなるので葉も苞も大きくなりません。クリスマスに間に合わせるには8月下旬から10月上旬まで毎日夕方6時から翌日8時までダンボールの箱をかぶせる等して暗くしてやります。気温が下がってきたら最低15℃以上を保つように保温します。

シャコバシャボテンも短日植物ですが、花芽分化の適温は、昼温20～25℃夜温15～20℃です。昼温30℃夜温25℃を越す高温や、夜温10℃以下の低温では、花芽分化はしません。短日適温で20～25日すると蕾が見えてきます。その後は短日は影響なくなりますが、25℃以上の高温では蕾が落ちることがあります。



(カラッコエ)

カラッコエも短日植物で、適温は20℃前後で、8月中旬から30日間9～10時間の処理をします。



# 21世紀の森と広場

## 8・9月のイベント



講座名		日付	定員	費用	講師名	受付
①	子ども自然体験・～昆虫から自然を学ぼう～	8月4日(土) 10時00分～11時30分	25組	無料	五十嵐清晃氏 加賀芳恵氏	7月15日～
②	ツバキの挿木とその後の管理	8月5日(日) 13時30分～15時00分	20名	無料	野口宣二氏	7月15日～
③	子ども自然体験・仕掛けにかかる水の生き物を観察しよう	8月11日(土) 10時00分～11時30分	20組	無料	相澤章仁氏 五十嵐清晃氏	7月15日～
④	21世紀の森と広場のトンボたち	8月11日(土) 10時00分～12時00分	15組	無料	市職員 川端祥子氏	7月15日～
⑤	21世紀の森と広場のトンボたち	8月12日(日) 10時00分～12時00分	15組	無料	市職員 川端祥子氏	7月15日～
⑥	ひょうたん作品づくり① (ひょうたん笛を作ります)	8月19日(日) 10時00分～12時00分	先着順 無制限	無料	松戸瓢箪村	7月15日～
⑦	ひょうたん作品づくり②③④ (ひょうたんの表面仕上げ)	8月19日(日) 10時00分～12時00分	各10名	1000円	松戸瓢箪村	7月15日～
⑧	秋野菜のつくり方	8月25日(土) 13時30分～15時00分	45名	無料	小林喜代次氏	7月15日～
⑨	昆虫ウォッチング(雨天時は屋内)	8月26日(日) 10時00分～11時30分	25名	無料	室紀行氏	7月15日～
⑩	秋まき草花の種まきと育て方	9月8日(土) 13時30分～15時00分	40名	無料	青島尚祐氏	8月15日～
⑪	昆虫ウォッチング (雨天時は屋内)	9月9日(日) 10時00分～11時30分	25名	無料	五十嵐清晃氏	8月15日～
⑫	植物ウォッチング「野草の種子の観察と調査体験」	9月15日(土) 10時00分～11時30分	25名	無料	相澤章仁氏	8月15日～
⑬	楽しくこけ玉作り	9月29日(土) 13時30分～15時00分	30名	1,000円	丸尾三恵子氏	8月15日～
⑭	バードウォッチング (雨天観察舎)	9月30日(日) 10時00分～11時30分	25名	無料	今村裕之氏	8月15日～
⑮	木の名前を調べて樹名板をつけよう	9月30日(日) 10時00分～12時00分	20名	無料	國安哲郎氏	8月15日～

※すべての催し物が(ひょうたん①を除く)、予約制となっております。

電話、または直接パークセンター窓口でご確認のうえ、お申し込みください。



# しっち 湿地の観察会

自然観察舎では自然解説員と一緒に「自然生態園」の木道を歩く観察会を実施しています。費用は無料です。

実施日	土曜日・日曜日・祝日
実施時間	10:00~10:30
	11:00~11:30
	13:30~14:00
	14:30~15:00
定員	25名(当日先着順受付)

※参加を希望される方は自然観察舎の受付までお申し込みください。

※月曜日は休館日のため観察会は実施しません。

【電話】 047-340-4140

## ★ご来園の皆様へお願い★

安全、快適に公園を利用させていただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。

**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、<sup>かわいい</sup>可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわいそうなおことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2012年8月1日  
発行：21世紀の森と広場パークセンター  
開館：9:00~16:30  
(7月21日~8月20日 9:00~18:00)  
月曜休館

〒270-2252 松戸市千駄堀269  
TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。



21世紀の森と広場シンボルキャラクター  
ドンちゃん・グリちゃん